

視察

総務文教常任委員会視察報告（令和8年1月19～20日）

視察先：愛媛県松山市

視察内容：ごみの減量・分別の取組について

- 人口は約49万人で、1人1日当たりのごみ排出量が732グラムと、県庁所在地で1位、中核市で2位という少ない市である。
- ごみ処理経費は約73億円ですが、市民の協力により、ごみ減量化が進んでいます。市指定のごみ袋は無く、有料化にする必要はない。



- 事業系ごみは、クリーンセンターへの産業廃棄物の混入防止・再資源化の推進を強化したことや、事業者に対し、リーフレットでの分別啓発活動や必要に応じて立入検査を実施しているため、ごみ減量化を実現している。
- まつやま Re・再来館（りっくる）の施設も見学し、太陽光発電や雨水を活用した節水取組、シルバー人材センターの方がリメイクを行う「りっくる工房」、リユース家具販売、また、特に未来を担う子どもたちへの環境教育を重視している。

視察先：香川県東かがわ市

視察内容：移住・定住問題について

- 人口は約2万5千人で、令和5年度の定住者数は42人、移住者は133人と目標値を上回る実績をあげている。
- 地場産業は、手袋で日本一の生産シェアを誇る市で、移住者の働き場所の確保は、ふるさとの就職を推進するため「未来創生就職促進事業」を重点施策とし、就労奨励金として一律5万円、奨学金償還支援として最大36万円を支給している。
- 移住者と地域住民の交流については、旧小学校単位で地域住民とさまざまな団体等で構成している「地域コミュニティ協議会」が交流事業を推進している。



視察先：徳島県上勝町

視察内容：ごみゼロの取組を体現・発信する
ゼロ・ウェストセンター見学

- 人口は約1,300人で、ごみの分別数は大きく分けて13種類、細かくは45種類以上に分別することで、80%を超える高いリサイクル率を実現している。持続可能な社会を目指した取組が注目されている。



中古品のリユースを行うくるくるショップ

政策提言

（令和8年6月30日）

- 『移住・定住問題』と『ごみ減量化等』について、市長に政策提言書を提出しました。



視察

産業厚生常任委員会視察報告

視察先① 香川県さぬき市 あなぶき鴨庄プラント（令和8年4月14日）

視察内容：付加価値の高い農水産物の生産・販売の取組

廃校施設を利用し、持続可能な循環型農法である「アクアポニックス」によるコチョウザメの陸上養殖と、イチゴ水耕栽培施設の視察を実施しました。

- 母体となる企業があつてこそその事業であるが、魚種を工夫することで本市でも活用が可能であると考えます。
- 国・県の補助金や市の空施設提供や技術支援が必要であると思います。
- 人口減少社会における地方再生のモデルケースに成り得ると感じました。

アクアポニックスの概要説明



コチョウザメ



イチゴ(よつほし)水耕栽培



水を循環

視察先② 岡山県 岡山理科大学（令和8年4月14日）

視察内容：好適環境水における陸上養殖

儲かる漁業を目指した「好適環境水」による陸上養殖施設の視察を実施しました。好適環境水は、海水中で魚が生育に必要な要素のみを抽出した人工飼育海水であり、通常海水での飼育より魚の受けるストレスが軽減され成長速度が早くなるといった特性も持ち合わせるものでした。

- 引続き委員会としても調査が必要になってくるのではないかと提起します。
- 高付加価値な国産ブランドを確立できる可能性を強く実感しました。
- 地域課題解決に向けて、未来を共に創る、希望の種である。海産物枯渇を鑑み、早急な取り組みが必要である。

好適環境水の座学



好適環境水でストレス無く生育



ウナギ

視察先③ 淡路市 北淡路土地改良区（令和8年5月14日）

視察内容：遊休農地解消に向けた取組・参入事業者のほ場視察

ブルーベリー・ヒル淡路・ハートスアグリフロンティア(株)・(株)ハーベストファームの取組と、ほ場視察を実施しました。

- 農地の再生、企業の投資、食育・教育との連携、観光・交流の創出、地域ブランド形成、これらが連鎖し、地域全体の活性化を引き起こすエンジンになれば。



参入事業者からの説明



ハートスアグリフロンティアほ場



ブルーベリー・ヒル淡路ほ場